

平成29年度 身近な教育委員会・教育懇談会

区民にとって傍聴しやすい夜間に教育委員会を開催する「身近な教育委員会」及び、区民や保護者と教育問題について話し合う「教育懇談会」を下記のとおり実施いたしました。

記

日時：平成30年2月2日（金）18時30分～20時45分

場所：教育支援センター研修室

概要：第1部 身近な教育委員会

○講演テーマ

「大学入試が変わる！だから板橋区では…～未来を切り拓く人づくり～」

○講演者

板橋区教育委員会 青木 義男委員

第2部 教育懇談会

○懇談テーマ

「未来を切り拓く人づくりに向けて、教育委員会・学校に期待すること」

○意見交換

※懇談・発表・意見交換の内容は、次ページ以降のとおりです。

参加者：92名

（内訳）保護者等 70名

教育長・教育委員 5名

中川修一教育長 高野佐紀子教育長職務代理者

青木義男委員 松澤智昭委員 上野広治委員

小・中学校代表 2名

飯田秀男桜川小学校長 増田裕子板橋第一中学校長

教育委員会事務局関係者 15名

平成29年度 教育懇談会 グループ懇談・発表・意見交換要旨

◎ 各班の発表内容 ※全10班のうち、立候補の3班が発表

【C班】

- 普段から学校に対して思っていることや、子どもたちの教育環境について話し合うことができた。
- それぞれに思っていることなどを付箋に書いて、カテゴライズし、意見を集約した。
- 短い時間の中でも、思っていることがたくさん出てきた。
- 子ども一人一人の良さ、通知表の数字だけでは測ることのできない子どもたちの良さを、もっと評価してほしいと思う。
- 授業を例えば2週間でマラソン、2週間でポートボールといったように単発的に短く区切らず、1年間をとおして続けられるような達成感や目標があったら、子どもにもっと良いのではないかと思う。
- アクティブラーニングやコミュニケーション能力の大切さが叫ばれて久しいが、そういうものが苦手な子どももたくさんいると思うので、そういう子どもにも表現できる技術を教えたり、場所を用意したり、可能性を伸ばしてあげてほしいと思う。
- コンピュータールームなどが完備されている学校にもかかわらず、それを活用しきれていない印象がある。
- ICT関係の教育の充実とともに、学校のホームページなども更新頻度を上げ、家庭や子どもと先生方それぞれが、オンタイムでやりとりができるような環境があれば良いと思う。
- ICTの良さを教えつつも、郷土を愛する心を育み、まちの良さを知る機会を増やすことで、日本のことをもっと知ることができるような、誇りを持って日本に生きられるような、板橋への郷土愛も学べるような子どもたちに育ててほしいと思う。

【F班】

- ビデオを拝見し、自分の視点、子どもの視点など、色々な視点で見ているのだなと思った。
- 話し合いでは色々な意見が出たが、大きく3つにカテゴリー分けができた。
- 1つ目として、子どもたちの興味を喚起させるような仕組みが必要だと思う。
- 楽しい場を経験させることで、自己有用感、自分をもっとできる、大人に認められているというようなことを体験させて、どんどんプラス思考にもっていけると良いと思う。
- 自分に合うこと、好きなことを、いかに見つけられるかというところを、もっと教育の場面で、教えてあげられたら良いと思う。
- 2つ目として、変化についていけない子どももきついていると思う。
- 失敗した時に、大人を含めた周りの人が、どのように支援していくのか。
- 全てを支援するのではなく、失敗することのある程度経験させ、自分で考えて、どうやって立ち直るのかなど、そういったところを支援していくことが必要だと思う。
- 失敗した時には、一人一人感じ方が異なり、心が折れてしまう子もいるが、負けずに考えて立ち上がってくる子もいるので、やはり大人がどのように支援していくのが重要だと思う。
- 3つ目として、子どもの可能性を引き出す環境づくりについて、家庭、学校、行政、地域がどのような環境をつくっていくのかを考える必要があると思う。

【H班】

- 子どもへの熱い思いを語り合うことができた。
- 安全教育の充実ということで、インターネット社会になっている中、学校でスマートフォンや携帯電話等の情報端末の使用ルールや、使い方等を教えた方が良いのではないかと思う。
- 使用ルールや使い方等を教えないままで、苦手意識を持つと、後で困ってしまうと思う。
- 保護者、地域と連携した教育という項目が出ており、「地域で育てる」というようなお話は良く出ているのだが、地域の人たちというくくりの中には、保護者も入っているということを自覚している人が少ないのではないかと思う。
- 地域との連携において、子育てが終わった段階の地域の方々は、とても良く協力して下さることが多いが、一方で、PTA活動などで感じるのだが、保護者の協力は少ないのではないかと思う。
- PTAが、地域の方々との集まりや、お祭り、地域清掃等に参加して、学校と地域の橋渡しをしていると思うのだが、学校側でも、子どもたちに声をかけ、地域活動への参加を促していくことで、連携につながっていくのではないかと思う。
- 主体的な学びをとおして、自由な発想を持つような子どもに育ててほしいのだが、子どもを見ていると、勉強をやらされているという気持ちがとても強いように思う。
- 自分から勉強をやりたいというような子どももちろんいるのだろうが、どちらかというと、やらされているように感じる子どもが多いと思うので、子どもが自分からやりたいと思えるような、子どもが面白そうだなと興味がひかれるような授業準備をしていただけると良いのではないかと思う。

◎ 意見交換の内容

<子どもの安全について>

- 日頃から防災活動に力を入れており、消防団にも入っているので疑問に思うのだが、なぜ、小学生は防災頭巾着用で、先生はヘルメット着用なのか。
- ヘルメットの方が頭を守れると思う。
- 夏の暑い中で防災頭巾をかぶり、顔を真っ赤にして訓練に参加しているような状況も見てきたので、この機会にお話を伺いたい。

⇒【指導室長】

- 明確に文書の形で、防災頭巾を着用しなければいけないという規定はないが、現状の理由としては、2つのことが考えられる。
- 1つ目は、収納の問題である。防災頭巾は保管が容易であるが、ヘルメットは保管場所の確保が困難である。
- ヘルメットでも最近、折りたたみ式のものが出てきているが、まだ高価なものであるため、従前からあるように、防災頭巾を椅子のうえに置いていることが多い。
- 2つ目は、防災頭巾は、小学生にとって、かぶりやすさがある。
- 小学校1年生から6年生までいる中で、ヘルメットでは装着方法の指導が必要であり、装着のしやすさでは防災頭巾の方が有用である。
- 一方、安全性という点ではヘルメットの方が高いと考えられ、他自治体では、小学生にヘルメットを準備しているところや、図工や音楽などの特別教室にヘルメットを備え付けているところもあるようだ。
- 収納や費用面の課題が克服されれば、ヘルメットの方が有効であることは確かだと認識はしている。

<小学校の英語教育について>

- 小学校で英語の授業が今後本格化し、リスニングなども入ってくると聞いている。
- 英会話教室に小さい頃から通っている子どももいる中で、英語を教える先生の英語力について、専任の先生が付いても人員にも限りがあると思うが、教育委員会ではどのように考えているのか伺いたい。

⇒【教育支援センター所長】

- 小学校でも3・4年生で外国語活動、5・6年生で英語科ということで、授業が増えてくることになるが、小学校には英語の専門の先生がいないのが現状である。
- 英語の教員免許を持っている先生もいるが、教育委員会では、平成28年度から、「英語教育推進リーダー」の育成を図っている。15人の少人数で1人につき10回の研修を行ってきており、平成30年度で3年目となる。
- また、来年度からは、英語の研修を全ての小学校の先生に、1回ずつではあるが、受けていただくことになっている。
- この研修については、先生の数が多いので、2カ年で実施することになっている。
- 先ほど、「英語教育推進リーダー」の育成について申し上げたが、さらに、専門の研修を受けた方の還元研修というものも実施している。
- それぞれの力、希望に応じて、ステップアップをはかっていくような研修を続けていきたいと思っている。

⇒ 【指導室長】

- ・小学校の先生が、実際に英語を教えられるのかという懸念について、確かに不得意だと思われる先生もまだいるのが現状である。
- ・一方で、特に若い先生、大学を卒業して新しく教員になるような先生の中には、大学のカリキュラムの変化もあり、英検2級程度を持っているような者が増えてきている。
- ・大学を卒業して教員免許を取得しているので、本来は英語を、読め、書け、話せるはずだが、英語力については、まだまだこれからというような先生もいるので、当面の間は、今のような研修で鍛えていきつつ、英語が堪能な先生が授業を行うことになる。
- ・教育委員会としては、「ALT」という外国人のアシスタントを小学校に、現在も配置しているが、さらに活用してもらいながら、英語科となる授業の準備を進めているところである。

<英語教育への地域の力の活用について>

- ・小学校の英語教育に携われるくらいの英語力をお持ちの方は、地域の中にたくさんいるのではないかと思いますので、ぜひ活用してほしいと思う。
- ・ある校長先生にお話を伺った際、板橋区で英語の授業が年間でどれくらいあるのかをお聞きしたところ、1年間で6回しかないというようなお話があった。
- ・他区の6分の1程度しかなく、「ALT」を活用している授業は、そのうちの2回か3回だということで、保護者としては、英語教育についての不安を感じている。
- ・地域で力になってくれる方はたくさんいると思うので、先生向けに研修を行うのも良いが、学校をとおして、地域が動いていかないと、なかなか変わっていかないのではないかと思います。

⇒ 【教育総務課長】

- ・地域の力をもっと活用するという点、貴重なご意見をいただいたことに感謝する。

<子どもの貧困問題等について>

- ・今回の講演では、大学入試が変わることから逆算して、未来を切り拓く人づくりについてのお話が中心であったが、大学に行くような子どもたちだけではなく、現在は、子どもの貧困問題で、格差が広がっている印象があり、特に公立の学校では、やはり家庭環境に幅があるという印象だ。
- ・公立の学校のメリットとして、平等な教育があると思うが、どの子も家庭環境に関係なく、自分の才能などを、先生から、学校から、地域から見つけてもらい、自分は貧困家庭だから高校に通えないというようなことがなく、教育の機会を与えてもらえるような環境をつくり、未来の人材を育てていくのが重要ではないかと思う。
- ・今日の動画も素晴らしかったが、文化的な理解がないまま海外に出ていくのではなく、日本ではなかなか海外の文化を理解する機会がないので、板橋区として、そのような教育ももっと行っていただくと良いと思う。

⇒ 【教育総務課長】

- ・様々なご意見をいただきましたので、これからの施策につなげていきたいと思う。

<部活動の応援について>

- ・自分の所属している部以外の部の応援に行ってもいけないという暗黙のルールがあるようだ。
- ・日曜日に、自分の所属している部の活動がないため、他の部の応援に行こうとしたところ、断られてしまったようなので、その理由を教えてください。
- ・学校から、行っても良いというような返事をいただいたこともあるが、暗黙のルールは存在しているようで、実際、学校からのプリントにも、他の子が応援に来る場合には事前に連絡するよう記載され

ており、なるべく来させないようにしている現状だと思う。

⇒ 【指導室長】

- 特にルールとして教育委員会が決めているものはない。
- 教育委員会としても、学校としても、子どもを信じたい、みなトラブルを起こさない子どもであると信じたいのだが、現実として、他校同士のトラブルであったり、試合中に応援をしている生徒に問題行動があった場合には、生徒の学校で、その責任を持たないといけない。
- 現場での対処は、その部活動の顧問が行わなければならない、困難なところがある。
- 教育の本質からいえば、応援を禁止するような対応については、確かに問題があるとは認識しているが、実際には指導する範囲がさらに広がってしまうため、顧問としてはできれば自粛してほしいという考えがあるのだと思う。
- 先にお伝えしたとおり、ルールではないので、学校の顧問や管理職等に相談をして、自分の子どもの責任で行かせたいということをお伝えいただきたいと思う。
- 現在のところ、応援の引率の教員をつけることは不可能である。
- また、部活動については、教員がボランティア的に、その役割を生徒のために担ってくれている部分もあり、応援の引率までを業務とすることは、不可能である。

<全体をとおして>

- 子どもの創造力を高めようなど、良いことをたくさん言っているのだが、「ダメ」と言われてしまうことが多すぎると感じているので、「ダメ」を少しでもなくしていけるよう、考えていってほしい。

⇒ 【教育総務課長】

- 率直で貴重なご意見を様々ないただいたので、今後の施策につなげていきたいと思う。

◎ 教育長の講評

- 様々な思い、熱い思いがあると思うので、このままお話をうかがうと、時間がいくらあっても足りない印象だ。
 - 先ほどの発言にあった、「ダメ」と言われてしまうことを減らしていくということは、まさにそのとおりだと思っている。
 - ただし、学校のせい、先生のせいと言われてしまうことが、あまりにも多いようにも感じる。
 - 責任を共有していくという気持ちで、学校、保護者、地域全てに必要なだと思っている。
 - 先生たちは限界に近い状況であり、これ以上の負担を求めることはできないので、ご意見のように、「ダメ」と言われてしまうことをなくすためには、私たち大人が、みんなで責任や義務を共有していかなければいけないと強く感じた。
-
- 本日お配りした、『板橋区教育ビジョン2025の概要』だが、これは平成28年に作成した、板橋区の教育分野における「概ね10年後のあるべき姿」を明らかにしたもので、これにもとづいて教育施策を進めるものだが、その中に、「それぞれの役割」というものが示されている。
-
- 「幼稚園・学校は、子どもたちの未来を担う力を引き出し、夢へつなげます」
 - 「家庭は、子どもとともに育ちながらやすらぎを与え、好ましい生活習慣や規範意識を身に付ける場としての役割を果たします」
 - AIやロボット等が出てきて、家庭は何をしたら良いか分からないという中であるが、認知的能力、すなわち読み書き計算といった力も大事だが、非認知的能力、すなわち我慢する力、最後までやり遂げる力、耐え抜く力等の当たり前の力を小さい時から育てていると、大きくなった時の学歴や就職、生涯賃金、あるいは犯罪率等にも、非常に関連があるという研究結果がある。
 - 家庭の中で何を大切にしていくのか、もう一度考えていただけるよう、願っている。
-
- 「教職員は、子どもの現在だけでなく将来をも意識し、指導力の向上に努め、子どもと向き合います」
 - 教育長に着任以来、私は毎月、校長先生方に授業を「改善」するにとどまらず、「革新」するようにと、徹底して言い続けている。
 - 先生が一方向的に子どもに内容を覚えさせるような授業も大事であり、基礎的・基本的な内容は覚えなるといけない。
 - だが、子どもが主体的に学ぶような授業を、どの先生でも、どの教室でもできるようにということで「板橋区授業スタンダード」の徹底を言い続けている。
 - たとえば、授業の最初に本時の「めあて」を書き、子どもたちが、その授業で何をやるのかが分かるようにしなさい。
 - 問題を与えたら、まずは1人でじっくりと考えさせるようにしなさい。
 - そして、すぐに答えを教えるのではなく、子ども同士で練り上げる時間を取り、最後にまとめていく。
 - そのうえで、授業の最後に、子どもたちに、どのような授業だったかを振り返らせなさい。
 - このようなことを1時間の授業、あるいは単元の中で行っていくよう強く話している。
 - 本日午前、中学校の授業を見てきた。
 - 以前は、率直に言って、退屈してしまうような授業であったが、これが確実に変わってきている。
 - 保護者のみなさんは、幼稚園や保育所の頃は、ほとんど毎日のように、幼稚園や保育所での子どもの様子を見ている。
 - 小学校の低学年のうちはまだその機会が多いが、思春期を迎える小学校の高学年、中学校となると、

みなさん足が遠のいてしまっており、本当はこの段階こそ、様子を見てほしいと思う。

- ぜひ、足を運んでもらいたいと思うので、小学校、中学校で、授業参観が重なるようなことのないよう、配慮していきたい。
- 「地域の子どもは地域が育てる」との意識で、子どもの育ちを支えるとともに、子どもとの関わりを通して、大人も学び続ける生涯学習社会を築きます」
- ここで、キーワードとなる話だが、板橋区は、平成32年度から全小中学校で「コミュニティ・スクール」というものを始める。
- 内容については今後、お知らせしていくが、先ほど英語の授業における地域の力の活用についての話が出たが、まさにそうしたことで、学校で教えるのは先生だけではなく、地域にはたくさんの素晴らしい力をお持ちの方々がいる。
- 特に会社等をすでにリタイアされた方の中には、様々な力をお持ちの方がたくさんいると思うので、このような力をどんどん学校に入れることで、子どもたちの学ぶ意欲が高まったり、ほめられたり、認められたりする機会が増えれば、自己有用感も高まると思う。
- 様々な、大変良いご提案をいただいたことに感謝している。
- 「教育委員会は、教育現場を大切にし、子どもの育ちや家庭・教職員・地域の教育を支えます」
- 保護者のみなさん、地域のみなさんには、学校をバックアップしていただいている。
- また、現場の先生にも、一生懸命子どもに向き合っていただいている。
- 子どもたちが、学ぶのが楽しい、明日も学校に行きたいと思えるような、また、保護者のみなさんが、子どもを板橋区の学校に入れて良かったと思えるような、あるいは、地域のみなさんが、「おらがまち」の学校を誇りに思えるような、さらには、先生方が板橋の学校で教員を続けたいと思えるような、そのような教育環境をつくるため、教育委員会として、鋭意努力して参りますので、今後も様々な忌憚のないご意見をいただければ幸いです。
- 本日は寒い中、多数お集まりいただき、本当にありがとうございました。